



2026年3月期決算説明会

代表取締役 社長執行役員 櫻林 美津雄

2026年6月2日

目次

1. 2026年3月期 決算概要	P.2
2. 2027年3月期 業績予想	P.12
3. 中期経営計画2025の進捗	P.16
Appendix ご参考	P.22

1. 2026年3月期 決算概要

業績サマリー

連結業績サマリー

- 売上総利益以下の各利益項目は2期連続過去最高を更新

(単位：百万円、%)

	2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期		コメント
	実績	前年 増減比	実績	前年 増減比	実績	前年 増減比	
受注高	132,896	△ 11.8%	142,115	6.9%	148,711	4.6%	土木事業増加
売上高	129,294	18.3%	135,627	4.9%	149,370	10.1%	手持工事進捗、設計変更獲得
売上総利益	14.5% 18,787	21.0%	17.0% 23,032	22.6%	16.6% 24,754	7.5%	手持工事進捗、設計変更獲得、原価改善
営業利益	6.1% 7,827	37.0%	9.1% 12,315	57.3%	8.7% 12,932	5.0%	増収・増益
経常利益	6.0% 7,743	37.6%	9.0% 12,252	58.2%	8.5% 12,717	3.8%	
親会社株主に帰属する 純利益	3.9% 5,054	33.4%	6.1% 8,217	62.6%	6.2% 9,328	13.5%	
1株当たり配当金 (中間) (円、銭)	17.0		22.0		40.0	(実績)	期首公表：80円→120円 (+40円)
(円、銭) (年間)	44.0		72.0		120.0	(予定)	

(単位：百万円)

<受注高>



<売上高>

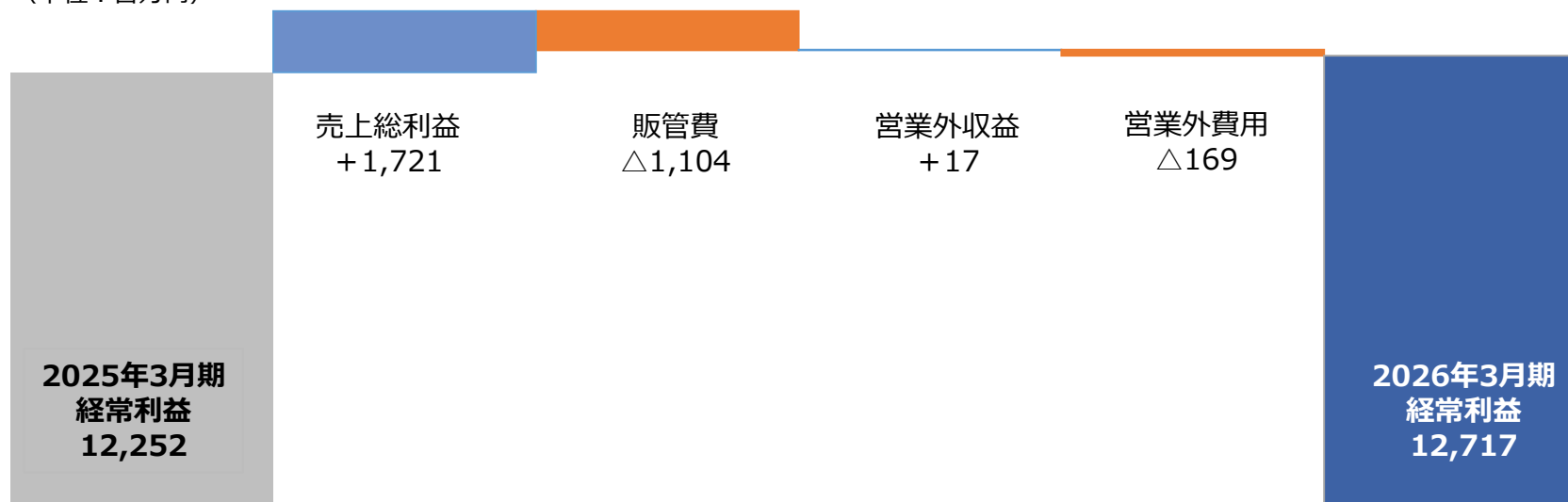


<当期純利益>



利益増減分析（前年度同期比）

(単位：百万円)



2025年3月期 経常利益

12,252 経常利益率 9.0%

売上総利益

+1,721 増収、設計変更獲得、原価改善

販管費

△1,104 人件費、DX関連費用増加

営業外収益

+17 受取利息、受取配当金増加

営業外費用

△169 支払利息、支払保証料増加

2026年3月期 経常利益

12,717 経常利益率 8.5%

セグメント別業績

セグメント別 受注高・売上高・売上総利益

(単位：百万円、%)

	2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期		コメント				
	実績	前年増減比	実績	前年増減比	実績	前年増減比					
受注高	土木事業	70,478	△ 17.1%	69,946	△0.8%	85,948	22.9%	新設橋梁増加（高速道路、鉄道関係）			
	建築事業	48,183	△ 8.3%	58,986	22.4%	53,011	△10.1%	前期反動減、案件の期ズレ			
	関係会社事業	24,793	0.5%	29,432	18.7%	23,504	△20.1%	ピー・エス・コンクリート、・ニューテック康和減少			
	その他事業	386	25.9%	403	4.5%	389	△3.5%				
	連結調整	△ 10,945		△ 16,653		△ 14,141					
	合計	132,896	△ 11.8%	142,115	6.9%	148,711	4.6%				
売上高	土木事業	67,263	10.6%	68,599	2.0%	75,814	10.5%	手持工事進捗			
	建築事業	48,297	34.0%	52,857	9.4%	62,905	19.0%	同上			
	関係会社事業	24,899	5.3%	25,650	3.0%	24,925	△2.8%				
	その他事業	386	25.9%	403	4.5%	406	0.6%				
	連結調整	△ 11,551		△ 11,883		△ 14,681					
	合計	129,294	18.3%	135,627	4.9%	149,370	10.1%				
売上総利益	土木事業	15.5%	10,451	10.9%	19.2%	13,168	26.0%	18.7%	14,162	7.5%	設計変更獲得、原価改善
	建築事業	9.9%	4,793	79.6%	9.7%	5,116	6.7%	9.5%	5,952	16.3%	増収影響
	関係会社事業	14.0%	3,478	8.2%	18.4%	4,715	35.5%	18.0%	4,488	△4.8%	亀田組、菱建基礎、海外子会社 減収減益
	その他事業	29.2%	112	12.5%	29.7%	120	6.3%	31.1%	126	5.4%	
	連結調整		△ 48			△ 88			24		
	合計	14.5%	18,787	21.0%	17.0%	23,032	22.6%	16.6%	24,754	7.5%	

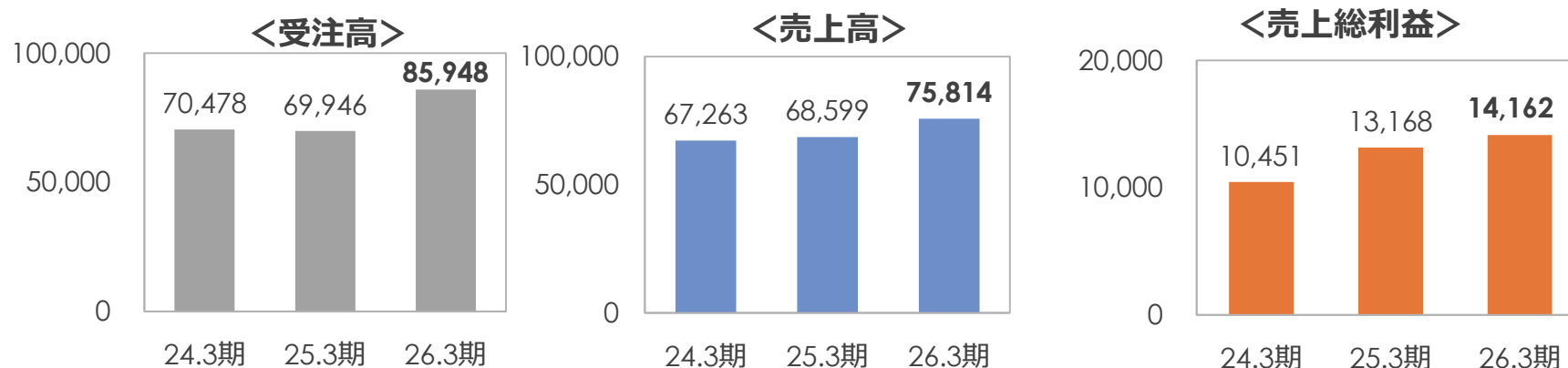
土木事業

業界環境

- 新設橋梁分野では、JRTTによる北海道、中央新幹線関連事業、メンテナンス分野では高速道路の耐震補強工事が着実に進展する一方、高速道路の大規模更新については減少傾向
- i-Construction2.0（国交省）では生産性1.5倍を目指し、省人化3割が目標。プレキャスト化への技術開発はその施策の一つとされる

業績推移

単位：百万円



- 受注高は大規模更新・修繕事業の継続工事、新設橋梁（高速道路、鉄道）受注により、前期比増加
- 豊富な手持工事の順調な進捗や高速道路関連工事の設計変更獲得等により、売上高、売上総利益ともに前期比増加

主な大型受注案件

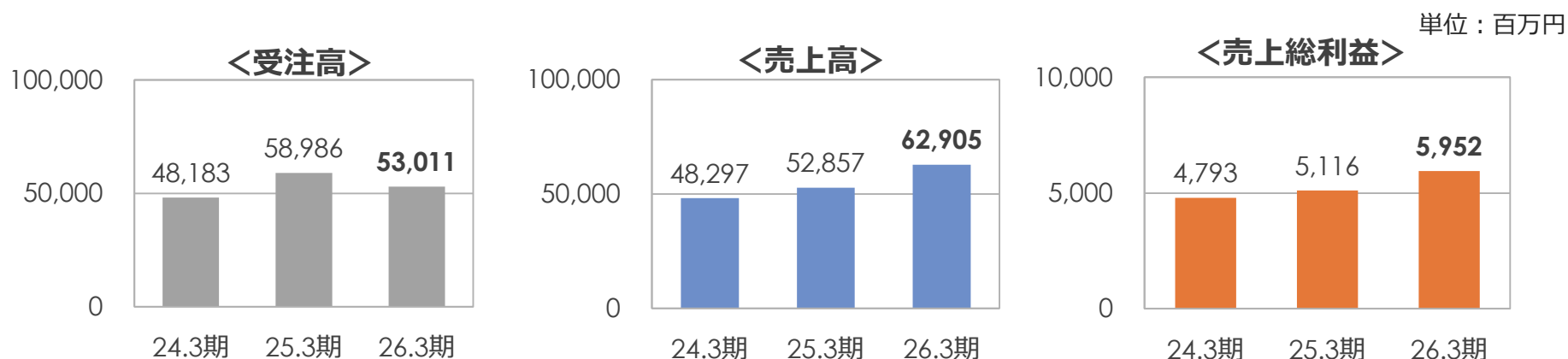
工事名	工事概要
JRTT中央新幹線、山王川橋りょう	PC連続箱桁ラーメン橋【張出架設:2連】L=127m、118m 【支保工架設:10連】L=126~66m
北陸道、金沢高架橋東床版取替工事（その4）	プレキャストPC床版取替工事：約9千㎡
新名神、杉谷川橋（下り線）PC上部工（その2）	橋梁拡幅工事 L=445m 橋面積：約2.3千㎡

建築事業

業界環境

- 旺盛な民間設備投資意欲により、半導体関連施設、データセンター、物流施設などの大型工事案件が増加、市場は右肩上がりで推移
- 技能労働者の高齢化、若年層の減少等により深刻な人手不足が続いている
- 足元では中東情勢の緊迫化により建設資材の価格高騰、供給の不安定化が懸念される

業績推移



- 受注高は前期反動減、民間取引先の一部で事業計画見直しによる発注時期のズレ込みあり
- 売上高、売上総利益については前年度からの繰越工事の進捗が順調に推移し、増収・増益

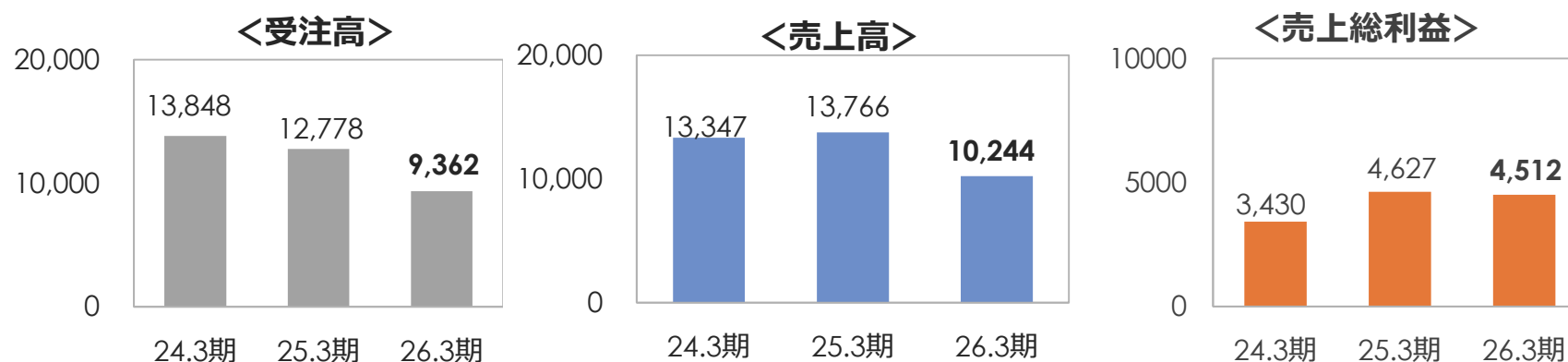
主な大型受注案件

工事名	工事概要	延床面積
瑞慶覧 (R5) 倉庫(4201)新設建築工事 (PC工事)	倉庫 RC造 2階建	46,000㎡
出光興産(株)千葉事業所内製造装置土工事	製造施設 S造 平屋建	
豊前市立豊前中学校整備工事	教育施設 RC造 4階建	10,000㎡

関係会社事業及びその他事業

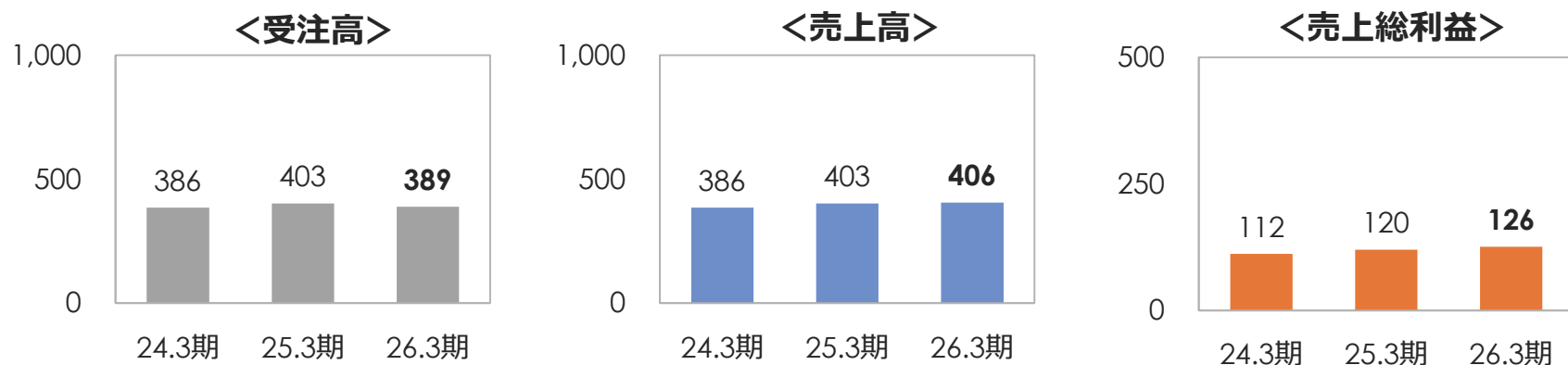
関係会社事業 - 業績推移

単位：百万円



その他事業 - 業績推移

単位：百万円



貸借対照表

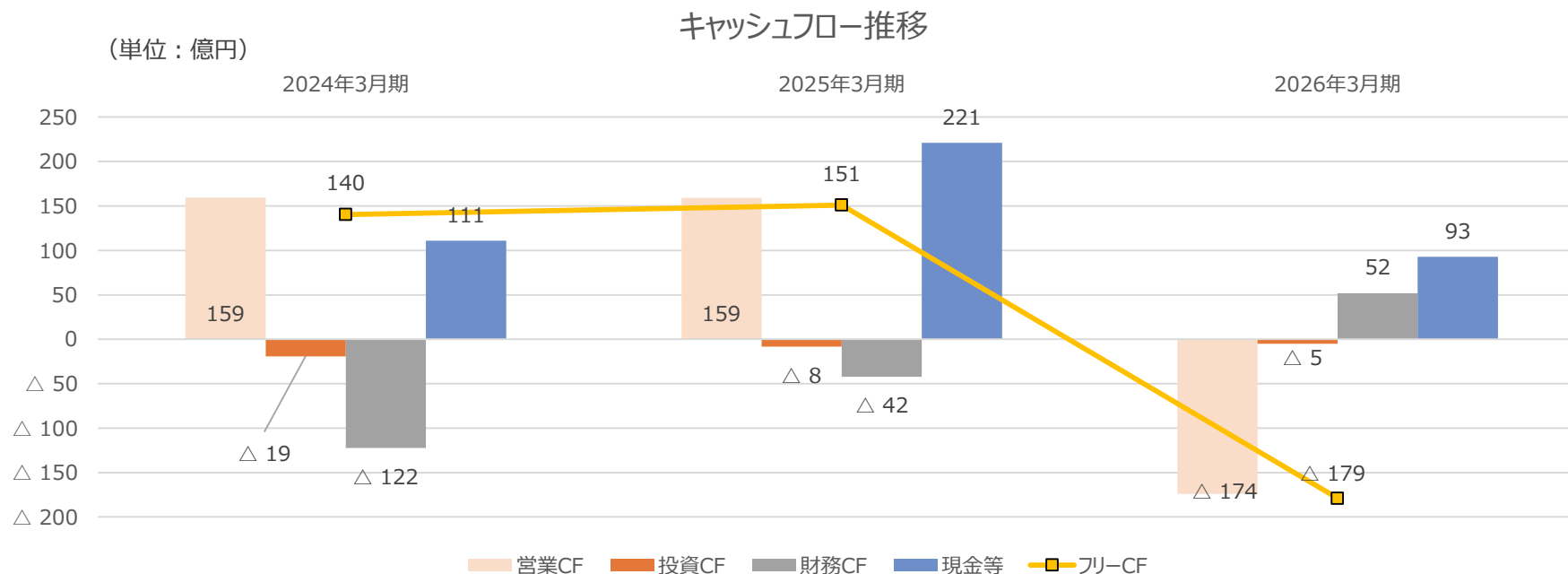
連結貸借対照表の主な項目

(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期		コメント
	①実績	②実績	③実績	前期末比(③-②)	
資産合計	122,118	130,836	142,464	11,627	
流動資産	95,503	104,616	113,648	9,031	
現金預金	11,163	22,100	9,343	△ 12,756	
受取手形・電子記録債権、完成工事未収入金・契約資産	77,269	75,069	96,159	21,089	工事進捗に伴う増加
未成工事支出金	2,455	3,425	2,381	△ 1,043	
その他の資産	4,615	4,021	5,763	1,742	未収入金増加 (JV工事)
固定資産	26,614	26,220	28,816	2,595	
有形固定資産	16,642	16,718	16,548	△ 169	寮・社宅売却
無形固定資産	188	59	39	△ 19	
投資その他の資産	9,783	9,442	12,228	2,785	投資有価証券増加 (時価評価による)
負債合計	69,947	72,955	76,977	4,021	
流動負債	54,293	61,742	60,586	△ 1,156	
支払手形・工事未払金等、電子記録債務	29,018	23,823	27,233	3,409	工事進捗に伴う増加
短期借入金	11,178	13,860	18,360	4,500	
固定負債	15,653	11,213	16,391	5,177	
長期借入金	9,060	4,700	9,940	5,240	長期借入金新規契約
純資産合計	52,170	57,880	65,486	7,605	
株主資本	47,974	53,890	58,667	4,777	剰余金配当、当期純利益計上
その他包括利益累計額	4,195	3,989	6,817	2,828	有価証券評価差額金増加
負債純資産合計	122,118	130,836	142,464	11,627	

キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの状況



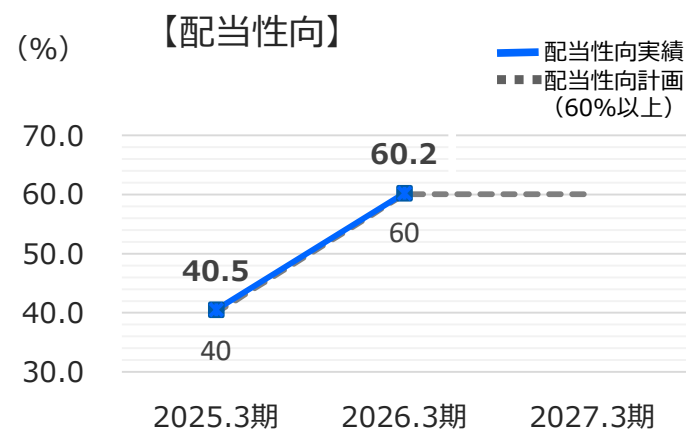
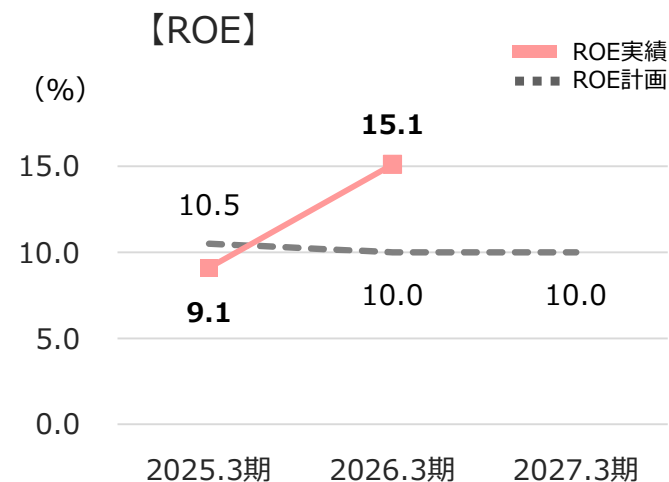
	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
営業CF	159	159	△174
投資CF	△19	△8	△5
フリーCF	140	151	△179
財務CF	△122	△42	52
現金等	111	221	93

財務指標

株主重視の財務政策

■ 財務指標については、中期経営計画2025目標値を全て達成

	中期経営計画2025 目標値		2026年3月期進捗	
資本政策	➢ ROE	10.0%以上	➢ ROE	15.1%
財務の健全性	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自己資本比率 ➢ D/Eレシオ ➢ PBR 	40～50% 0.5倍以下 1.0倍	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自己資本比率 ➢ D/Eレシオ ➢ PBR 	46.0% 0.43倍 1.93倍
株主還元	➢ 配当性向	60%以上	➢ 配当性向	60.2%
投資	【3ヵ年累計】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 成長投資 ➢ 基盤強化投資 ➢ 更新投資 	計 160億円 70億円 55億円 35億円	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 成長投資 ➢ 基盤強化投資 ➢ 更新投資 	計 37億円 13億円 14億円 10億円



2. 2027年3月期 業績予想

各セグメントの外部環境と今後の見通し

土木事業

- 公共事業関係費は、前年並みを確保(約6.1兆円、補正予算含まず)。このうち国土強靱化は、約4.1兆円(前年度比1%増)を計上
- 高速道路関連の大規模更新・修繕事業は10年程度の継続が見込まれる一方で、重交通路線を中心に施工時に難易度が高い工事が増加
- JRTTによる中央新幹線関連の新設橋梁の進展に加え、防衛関連における火薬庫整備や空港・港湾施設の拡充、施設強靱化に係る事業が計画的に進められているほか、プレキャスト化の拡大も期待
- DX(デジタルトランスフォーメーション)を活用した業務効率化・高度化に寄与する施工管理デジタルツール技術の導入を促進



(東名高速道路) 大井川橋床版取替工事
本工事は、重交通路線の床版取替工事であり、渋滞による社会的損失を最小限に抑え、当社が得意とする「半断面施工」を採用

建築事業

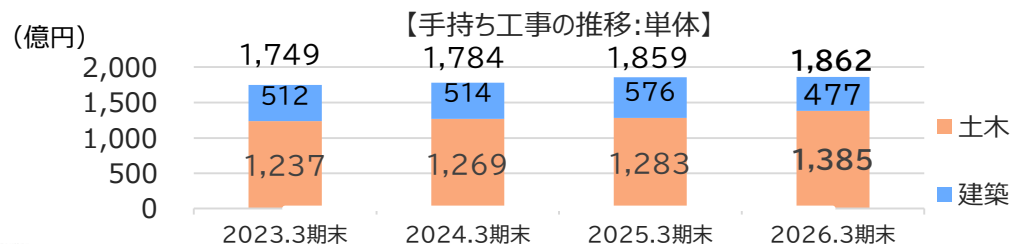
- 防衛施設強靱化計画により、九州・沖縄地区の防衛施設において、プレキャスト工法の採用が検討されている大型案件が今後5年から10年にかけて発注される見通し
- 半導体工場、データセンター、GX関連等の需要が今後も見込まれる
- 老朽化した建築物の更新工事等リニューアル工事の設備投資は拡大傾向を維持しており、引き続き堅調に推移する見通し
- 人材の高齢化、時間外労働規制といった課題に直面しており、DXの推進が喫緊の課題
- 中東情勢の緊迫化による今後への影響は不透明であり、不確実性が懸念されるなか民間設備投資の動向等に注視が必要



当社施工現場でBIMを活用したフロントローディングを試行
設計段階での課題抽出・解決による設計品質の向上への取り組み

手持ち工事量は1,862億円で過去最高水準

- 土木事業は大規模更新事業を主軸に1,385億円、建築事業は477億円と高水準を維持



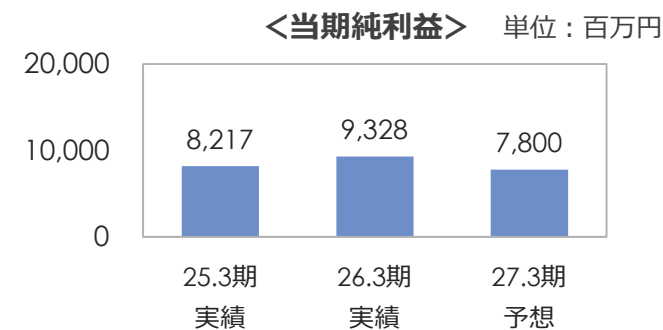
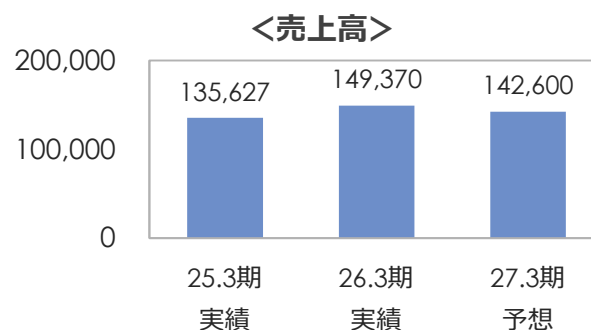
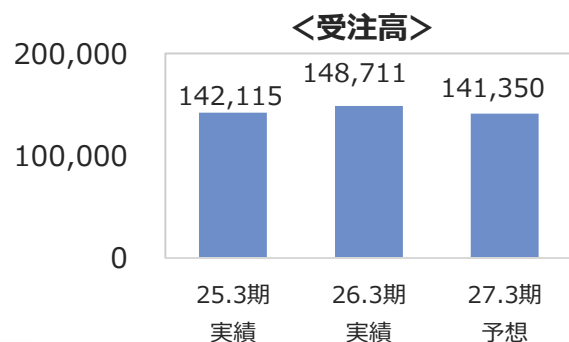
業績予想

連結業績予想

■ 純利益は、中計最終年度目標を上回る見込み

(単位：百万円、%)

	2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期		2027年度目標 (中計2025)	
	実績	前年 増減比	実績	前年 増減比	予想	前年 増減比	計画	
受注高	142,115	6.9%	148,711	4.6%	141,350	△ 5.0%	N.A	
売上高	135,627	4.9%	149,370	10.1%	142,600	△ 4.5%	150,000	
売上総利益	17.0% 23,032	22.6%	16.6% 24,754	7.5%	16.1% 23,000	△ 7.1%	15.5%	23,300
営業利益	9.1% 12,315	57.3%	8.7% 12,932	5.0%	7.6% 10,800	△ 16.5%	7.1%	10,600
経常利益	9.0% 12,252	58.2%	8.5% 12,717	3.8%	7.4% 10,600	△ 16.6%	7.1%	10,600
親会社株主に帰属する 純利益	6.1% 8,217	62.6%	6.2% 9,328	13.5%	5.5% 7,800	△ 16.4%	4.7%	7,000
1株当たり配当金 (中間)	22.0	(中間)	40.0	(中間)	50.5	(中間)		
(円、銭) (年間)	72.0	(年間)	120.0	(年間)	101.0	(年間)		



セグメント別業績予想

セグメント別 受注高・売上高・売上総利益

■ 建築事業は、原価改善により利益率アップを見込む

(単位：百万円、%)

	2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期		コメント				
	実績	前期増減比	実績	前期増減比	予想	前期増減比					
受注高	土木事業	69,946	△ 0.8%	85,948	22.9%	69,000	△ 19.7%	土木分野において、前期大型工事を複数受注した反動減			
	建築事業	58,986	22.4%	53,011	△ 10.1%	58,000	9.4%				
	関係会社	12,778	△ 7.7%	9,362	△ 26.7%	13,950	49.0%				
	その他事業	403	4.5%	389	△ 3.5%	400	2.7%				
	連結消去・調整	△ 16,654		△ 14,142		△ 7,020					
	合計	142,115	6.9%	137,900	△ 3.0%	141,350	2.5%				
売上高	土木事業	68,599	2.0%	75,814	10.5%	72,000	△ 5.0%	各セグメント減収			
	建築事業	52,857	9.4%	62,905	19.0%	57,600	△ 8.4%				
	関係会社	13,766	3.1%	10,244	△ 25.6%	12,600	23.0%				
	その他事業	403	4.5%	406	0.6%	400	△ 1.6%				
	連結消去・調整	△ 11,884		△ 14,682							
	合計	135,627	4.9%	148,200	9.3%	142,600	△ 3.8%				
売上総利益	土木事業	19.2%	13,168	26.0%	18.7%	14,162	7.5%	17.7%	12,750	△ 10.0%	土木：前期の大幅な設計変更、原価改善の反動減 建築：前期に低採算工事が完了したことにより利益率アップを見込む
	建築事業	9.7%	5,116	6.7%	9.5%	5,952	16.3%	11.0%	6,340	6.5%	
	関係会社	33.6%	4,627	34.9%	18.0%	4,512	△ 2.5%	18.7%	3,800	△ 15.8%	
	その他事業	29.7%	120	6.3%	31.1%	126	5.4%	27.5%	110	△ 13.1%	
	連結消去・調整		△ 89			24			31		
	合計	17.0%	23,032	22.6%	16.3%	24,100	4.6%	16.1%	23,000	△ 4.6%	

3. 中期経営計画2025の進捗

中期経営計画2025の概要

当社のありたい姿（長期経営ビジョン）

「PC技術を中核とした高度な技術力により、地球にやさしく安全で快適な社会の実現に貢献する」

土木事業のありたい姿

- PC・プレキャスト※・橋梁リニューアルの高い技術を活かし、社会・環境課題の解決に貢献
- ステークホルダーからの絶対的な信頼を獲得

※プレキャスト（PCa）：建築物や構造物のコンクリート部分を工場であらかじめ製作すること

建築事業のありたい姿

- プレキャスト技術と環境関連等のリニューアル技術の提供により、サステナブルな社会の実現に貢献
- 顧客からの絶対的な信頼を得るとともに、更なる収益拡大を図る
- 取り巻く環境の変化を的確に捉えた事業展開

中期経営計画2025全体像



中期経営計画2025の進捗

サステナビリティ経営の実践 環境への取り組み/ウェルビーイングの充実

- 製造時に蒸気養生を不要とした「**スチームレスプレキャストコンクリート**（略称：SLPC）」が、国土交通省の橋梁工事で初採用され、工場における部材製造時のCO₂排出量を約12%削減

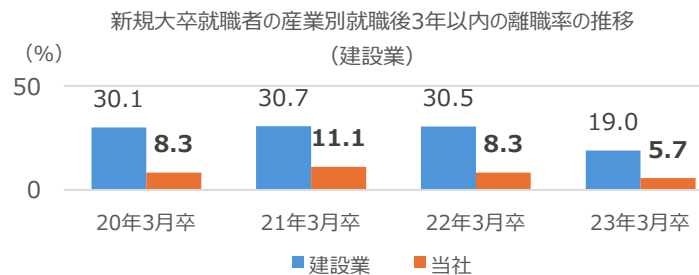


工場で製造された橋げた



橋げた設置完了状況

- 賃上げ、制度整備（育児、介護等）により**離職率10%以下**を維持



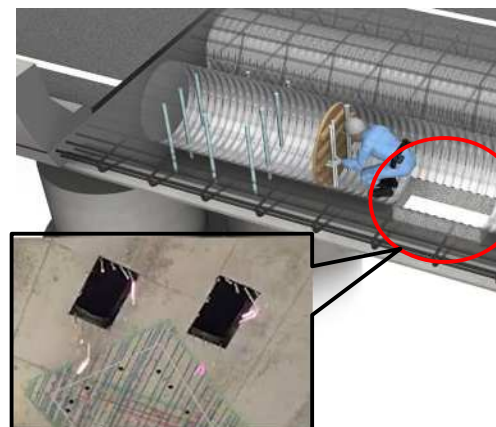
※2023年3月卒：「建設業」は就職後2年以内の離職率、「当社」は就職後3年以内の離職率を記載
出典）厚生労働省HP 新規大卒就職者の産業分類別 就職後3年以内 離職率の推移（当社実績を追記）

技術開発の推進

- 既設中空床版橋に落橋防止システムを取り付ける際の橋梁への損傷低減と施工性向上に寄与する工法「**UB-WALL工法**」を開発

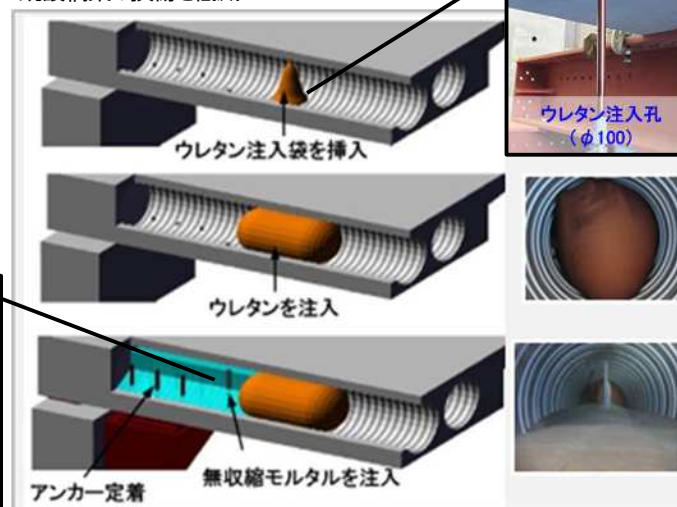


落橋防止システム



従来工法では作業員が内部で作業するため、橋の下面に開口部を設ける必要がある

桁底面にφ100のウレタン注入孔とモルタル注入孔を削孔するだけで施工が可能。従来工法と比較し既設橋梁の損傷を低減



中期経営計画2025進捗

土木事業 戦略方向性：ポスト大規模更新・修繕を踏まえた体制・戦略の具体化

大規模更新・修繕事業の状況

- 2025年度の大規模更新・修繕事業の実績で278億円の受注を獲得し、**シェアは15%**となっている。受注シェアについて毎年トップシェアを争う位置を維持
- 2026年度における高速道路会社による大規模更新は減少傾向である一方、**大規模修繕については一定の市場が見込まれる**

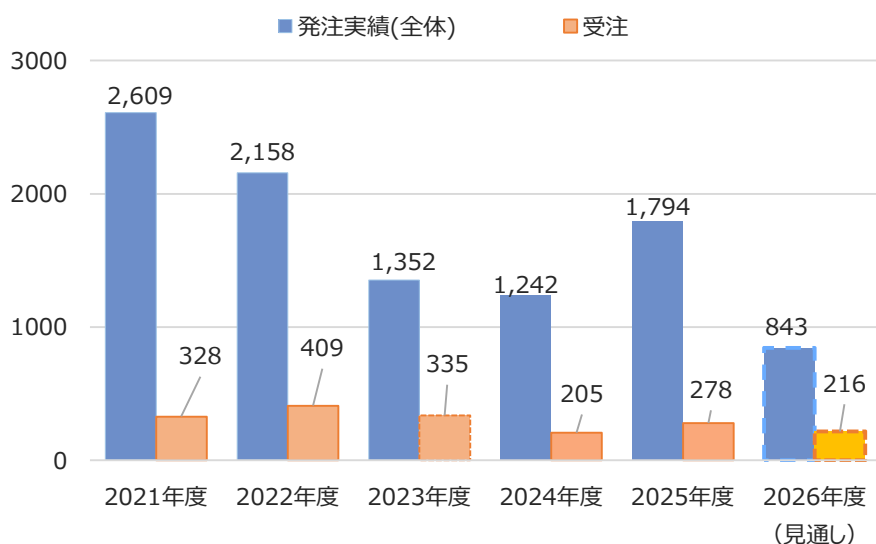
主な大規模更新・修繕事業の新規受注工事の概要

工事名（発注者）	工事概要
中国自動車道 高梁川橋他1橋床版取替工事 (NEXCO西日本)	・床版取替 (3,000m ²) ・床版防水、塗替塗装 ・断面修復
中国自動車道 烏帽子第三橋他1橋床版取替工事 (NEXCO西日本)	・床版取替 (1,700m ²) ・床版防水 ・塗替塗装
常盤自動車道 久慈川橋耐震補強工事 (NEXCO東日本)	・下部工補強 (40基) ・落橋防止構造 (74組) ・縁端拡幅工 他

注力分野（メンテナンス・PC非橋梁）

- **グラウト再注入、耐震補強**などのメンテナンス領域における案件獲得を重点的に推進し、当該分野の受注拡大を計画的に推進
- **防衛火薬庫のプレキャスト化**提案を重点施策として強化し、採用の確保および受注獲得を着実に推進
- **コンサル型営業を活性化**し、特化技術のPRを通じて市場における当社の存在価値を高め、安定的な財産形成につなげる

＜大規模更新・修繕事業の動向＞



(注1) 2026年度の受注額は見通し値



グラウト充填不足の事例



グラウト再注入工法（リパッシュ工法）



耐震補強（橋脚PCコンファインド工法）

中期経営計画2025進捗

建築事業 戦略方向性：PC建築・リニューアル・一般建築を柱とした事業体制を構築

注力分野（PC建築・リニューアル）

PC建築

- 防衛施設の大型プレキャスト・プレストレストコンクリート（PCaPC）工事を複数件受注
- プレキャスト工場を活用したプレキャスト建築（PC/RC）の営業展開により、半導体関連施設、データセンター、防衛省案件の受注に注力
- 九州・沖縄地区防衛省案件の受注に特化した専門部署を九州支店に設置
- 当社設計施工「免震構造 + PCaPC」採用の総合病院「(仮称)福岡中央病院建替計画」竣工

リニューアル

- 前施工顧客を中心に訪問提案営業を展開。建物一次診断（無償）実施～リニューアル工事提案～施工へと繋げていく。建物診断時にZEB・ZEHの提案を実施
- 東京建築支店にリニューアル専門部署を新設。調査・診断・企画・営業・積算・施工の一元化

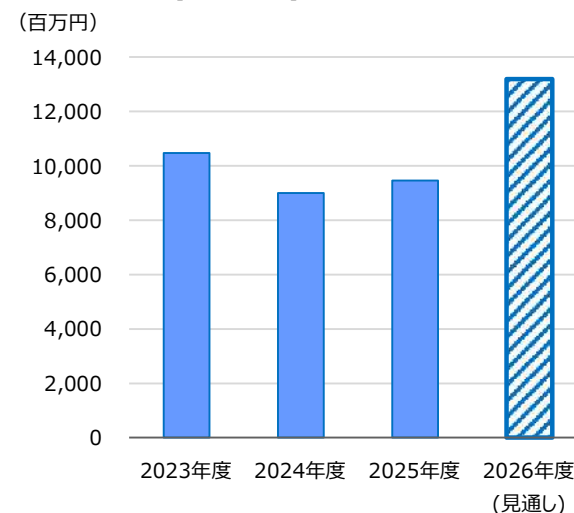
主力分野（一般建築）

- 注力対象とする医療福祉、教育施設、工場施設等において、大型案件を受注
- 収益性・生産性を重視した受注戦略を実施

生産性向上

- 現場作業の効率化を目的としたバックオフィス、BPOサービスを積極的に活用し生産性を向上
- BIMを基盤としたフロントローディングを展開

PCa(PC/RC)建築売上実績推移



防衛施設の大型案件が2026年度以降の売上に大きく寄与



「湖池屋 中部工場」(右)、物流センター「トランコム 海津ロジスティクスセンター」(左)の両施設を施工
食品工場と物流センターが直結し、環境負荷低減と物流の効率化を実現

中期経営計画2025進捗

グループシナジーの創出

共通事項

- 資材等の**共同調達**による**コスト削減**
- 営業情報の共有
- JVや協力会社での受注機会の創出
- **人材・技術交流**の実施

土木事業

- 大成建設が開発した**プレキャスト床版接合技術「Head-barジョイント®」**を当社床版取替工事の現場で適用
- 当社新設橋梁現場のコンクリート打設時に大成建設が開発したコンクリート床仕上げロボット**「T-iROBO®Slab Finisher」**を適用

建築事業

- 大成建設との連携によりノウハウ習得、大成建設グループとの営業情報の共有化、新規顧客紹介による営業基盤強化
- **リニューアル事業の拡大に向け、体制整備を実施**、建物診断の研修を受講し社員のスキルアップを図る
- 大成建設グループの若手技術者の技術力向上と人材交流を目的に実施している**「鉄筋アカデミー」「鉄骨アカデミー」**へ参加



若手技術者の技術交流会にて現場見学会の様子



プレキャスト床版接合技術「Head-barジョイント®」



「T-iROBO®Slab Finisher」の適用



鉄筋アカデミー座学の風景
※写真は過去事例

Appendix. ご参考

会社概要・沿革

会社概要

名称	ピーエス・コンストラクション株式会社
本社	〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング18階 Tel (03)-6385-9111
設立	1952年3月1日
資本金	42億1,850万円
上場	東京証券取引所プライム
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.プレストレストコンクリート（PC）工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業 4.プレストレストコンクリート（PC）製品及びプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売 5.プレストレストコンクリート（PC）工事用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸 6.鉱物の採掘及びその請負 7.不動産の売買、賃貸及びそれらの仲介ならびに所有管理 8.運送業及び倉庫業 9.損害保険代理業及び生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業 10.前各号に関連ある一切の業務

沿革

	(株)ピー・エス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業（現 三菱重工業(株)）七尾造船所の諸施設及び従業員を引き継ぎピー・エス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉱業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新三菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1991	(株)ピー・エスに社名変更	
2002	合併により(株)ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd .設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	
2022	東京証券取引所市場第一部からプライム市場へ移行	
2023	大成建設(株)による株式公開買付けにより、同社が親会社へ異動	
2024	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社である(株)ピーエスケーが、PC工事向けコンクリート二次製品用鋼製型枠及び架設機材の設計・製作を目的とする関係会社、(株)東葉製作所を子会社化 (株)ピーエス三菱からピーエス・コンストラクション(株)に社名変更 	
2026	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社であるピー・エス・コンクリート(株)を吸収合併 	

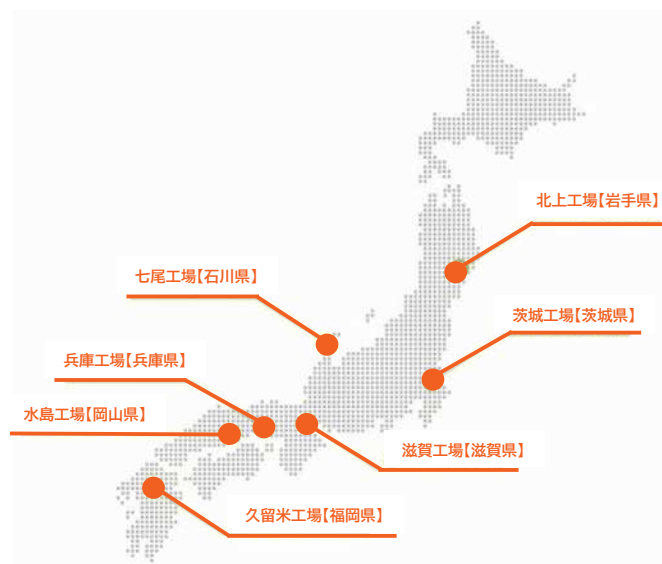
グループネットワーク

ピーエス・コンストラクショングループ（主要国内4社）

ピーエス・コンストラクション

支店	・東京土木支店 ・東京建築支店 ・札幌支店 ・東北支店 ・大阪支店 ・名古屋支店 ・広島支店 ・九州支店	株式会社ピーエスケー		PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売及びこれらの運用・活用に関するエンジニアリング
		株式会社ニューテック康和		道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル
		菱建商事株式会社		建築資材販売、物流、不動産関連など
	営業所	・21箇所	菱建基礎株式会社	

国内工場ネットワーク



海外ネットワーク



事業構成

建築事業

【強み】

- プレキャスト（PCa）工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供
- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売

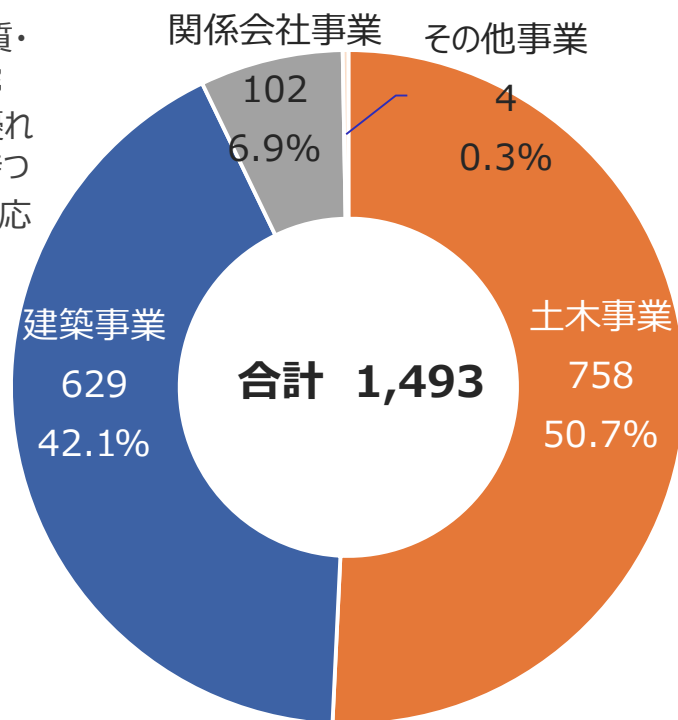


福岡中央病院

関係会社事業

- PC工事の資機材の製造・販売・賃貸
- コンクリート構造物の維持補修

セグメント別売上高



セグメント別売上高・構成比率
(2026.3月期 単位：億円)

土木事業

【強み】

- 日本におけるプレストレストコンクリート（PC）の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップカンパニーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開



首都圏中央連絡自動車道 古和高架橋

その他事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介

プレストレストコンクリート（PC）技術とプレキャスト（PCa）技術とは

プレストレストコンクリート（PC）とは

PCは「高強度の鋼材によって、あらかじめ（プレ）応力（ストレス）を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点である“引張には弱い”を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、梁の高さを抑えながら、その長さを大きく取ること（大スパン化）ができます



プレキャスト（PCa）とは

現地以外の工場などで、あらかじめコンクリート部材を製作することです

- 工場で生産されるため、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組みコンクリートを施工する場合より、騒音や粉じんの発生を抑え周辺環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます





将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

IRに関するお問い合わせ先

ピーエス・コンストラクション株式会社 管理本部 総務部 広報・IRグループ
〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング
TEL : 03-6385-8002 FAX : 03-6316-2321 メールアドレス : koho.ir@psc.co.jp